

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.131) 2025/4/25

目次

1. 第 51 回大会について
2. 第 4 回理事会報告
3. 定例研究会の報告（関東）
4. 定例研究会の報告（関西）
5. 看護・ケア研究部会告知
6. 渉外・国際交流活動の告知
7. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について
8. 編集後記

1. 第 51 回大会について

第 51 回大会は、長崎大学医歯薬学総合教育研究棟（長崎大学坂本キャンパス 2）で開催いたします。開催日時は 2025 年 5 月 24 日（土）-25 日（日）です。メインテーマは、“Health and Medical Sociology in Motion: 「越境」をさぐる”としました。このメインテーマには、単に国や地域の境界を越えるという意味だけではなく、異なる学問領域の境界、当事者と研究者の境界等を越えて、ダイナミックな保健医療社会学を構築しようという意味を含めました。

本大会では、例年通り一般演題や RTD(Round Table Discussion)を行うほか、以下の企画を予定しています。

1. 大会長講演

演者：平野 裕子（長崎大学）

テーマ：「保健医療社会学における『越境』をさぐる」

2. 記念講演

演者：Pham Duc Muc（ベトナム看護協会長）

テーマ：「ベトナムにおける介護者研修プログラム実施の可能性と課題」

3. シンポジウム

演者：小川全夫（九州大学名誉教授）、Susiana Nugraha（University of Respati Indonesia 講師）、伊藤尚子（京都府立医科大学准教授）

テーマ：「アジアの目を通して日本の介護を問い直す」

本大会では、登壇者を除き、事前申し込みに関り Web 参加も受付けます。大会ホームページよりお申込みください。

<https://jshms-conference2025.jp/>

事前申し込みは、クレジットカード決済・ゆうちょ銀行振り込みによる手続きが可能です。5 月 18 日 23 時 59 分までをお願いいたします。学会当日申し込みは、クレジットカード決済のみ

をお受けします。なお、事前申し込みの際には、大会事務局からのアンケートにもお答えいただけますと幸いです。アンケートには、長崎市における宿泊状況ならびに、学会期間中のお弁当のご希望の有無をお尋ねしております。

第 51 回大会は、おかげ様で過去最大規模の演題エントリーがございました。このため、例年とは異なり、大会初日（5 月 24 日）の午前 9 時半より、大会 2 日目（5 月 25 日）の午後 4 時 20 分まで演題および RTD が予定されております。ホームページ上に学会スケジュールが掲載されておりますので、よくご確認の上、宿泊・交通機関の予約等をお早目をお願いいたします。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

（第 51 回大会長：平野裕子 [長崎大学生命医科学域保健学系]）

2. 第 4 回理事会報告

以下の通り、2024 年度第 4 回理事会が開催されました。

日時：2025 年 3 月 17 日（月） 10：00～12：00

会場：ZOOM 会議

出席者：金子会長、石川理事、田代理事、海老田理事、三井理事、松繁理事、佐藤理事、美馬理事、平野理事、井口理事、榎田大会長（第 52 回）、事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：朝倉監事、黒田監事

1) 第 51 回大会の進捗状況について（第 51 回大会長）

平野第 51 回大会長より、大会 1 日目は 9：30 から開始することや申し込み状況について報告があった。参加者へ抄録集の PDF を事前送付するが、大会前日にクラウドにアップロードすることを伝え、配布時には無断配布しないよう注意書きを入れる。

2) 第 52 回大会の進捗状況について（第 52 回大会長）

榎田第 52 回大会長より、日程について 6 月半ばとなりそうなこと、テーマ案、実行委員会組織について説明があった。実行委員会組織について 3 月 31 日に準備会を開催し、そこで委員を決定し、4 月中に実行委員会を開催する予定であることが伝えられた。

3) 園田賞（学会奨励賞）候補について（研活理事）

佐藤理事より、選考対象論文 4 本について、選考委員会で審査の結果、受賞者候補が推薦されたことが報告され、承認された。

4) 研究活動委員会報告（研活理事）

三井理事より、第 51 回大会一般演題 49 件、RTD13 件を採択したとの報告があった。関西定例研究会を 2 月 15 日と 3 月 15 日、関東定例研究会を 3 月 1 日に開催したとの報告があった。

5) 編集委員会報告（編集理事）

田代理事より、論集 35 巻 2 号を発刊したこと、36 巻 1 号の進捗状況について報告があった。

6) 看護・ケア研究部会報告（松繁理事）

松繁理事より、12 月 21 日に定例研究会を開催したことが報告された。第 51 回大会の 2 日目である 5 月 25 日に看護・ケア研究部会の総会を行うことが伝えられた。

7) 渉外・国際交流活動の報告（渉外国際交流理事）

平野理事より、国際活動について学会ホームページへ掲載したとの報告があった。第 51 回大会中には委員会を開催しないことが伝えられた。

8) ニューズレター次号の配信について（広報理事）

井口理事より、ニューズレター131号について原稿締切と発行予定が伝えられた。また、今後のホームページ更新、ニューズレター配信スケジュールについて説明があった。

9) 2024 年度決算案及び来年度予算案について（総務理事）

石川理事より、決算案と予算案について説明があった。決算案について通常会員の納入率が 85%であること、雑収入に 50 回大会補助金返金 20 万円と黒字寄付分が計上されていることが伝えられた。支出については概ね予算通りに執行されており、交通費について理事会等がオンライン開催の為、発生していないこと、大会活動補助費について第 50 回大会が黒字であったことから支出が抑えられていることが説明された。

予算案について収入は例年のように算出し、計上していることが伝えられた。支出については契約変更に伴い事務局関連業務委託費や HP 関連メンテナンス費の値上げ分を計上していることが説明された。研究会・部会活動補助費に医学教育 WG の活動費を引き続き計上することとした。

10) 2025 年度大会時評議員会・総会の議題と資料の作成について（学会長・総務理事）

金子会長より、総会議案書の原稿締切、評議員推薦について伝えられた。また、総会議案書を総会前に会員向けメール配信をすることが提案され、承認された。

11) 次期役員選挙結果について（学会長）

金子会長より、理事と監事の役員選挙結果報告があった。理事は 2 名より辞退があり、次点へ就任依頼し 7 名の内諾が得られたことが伝えられた。監事については上位 2 名より内諾が得られたとの報告があった。

12) 入退会者の承認（総務理事）

石川理事より、新入会 40 名の承認依頼があり、承認された。また、退会 3 名と逝去 1 名の報告があった。

13) その他

令和 6 年能登半島地震被災者への会費免除について、金子会長より、現時点で申請が 0 名であることから、2024 年度をもって能登半島地震被災者への会費免除措置を終了することが提案され、承認された。

（石川理事：総務担当）

3. 定例研究会の報告（関東）

関東定例研究会報告 2024 年度第 2 回（報告）

日時：2025 年 3 月 1 日（土） 13:30～16:30

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 3F4031

報告者：小西優実（東京大学大学院）・大島岳（明治大学）

タイトル：「セクシュアル・マイノリティをめぐる医療」

討論者：新ヶ江章友（大阪公立大学）・志水洋人（名古屋大学）

司会：三井さよ（法政大学）・松繁卓哉（追手門学院大学）

セクシュアル・マイノリティにとっての医療とは、どのようなものか。これを知ろうとすることは、医療を多様な人びとにもっと開かれたものにする一助となるだけでなく、現代社会において医療とは人びとにとってどのようなものとなりつつあるのかを、先鋭的な事例から探ることでもある。今回の研究会は、HIV とともに生きる人や周囲の人たちがいわゆる患者会的な活動を超えて緩やかに紡いでいったネットワークや、性別移行の医療を提供する医療者の立場から見たトランス医療の具体的な現状などを通して、古典的医療者－患者関係論を超える手がかりを探る機会とした。

まず小西さんから「過小の医療・複数の医療」と題して報告があった。前半、「脱病理化」時代の「トランス医療」について解説があり、その後、トランス医療のアクセス口の意味付けを方向づける2つの力学、すなわち〈正当性確保〉の力学と〈現実的な問題の解消〉の力学に関する考察が論じられた。続いて大島さんからは、2023年に刊行された著書『HIV とともに生きる－傷つきとレジリエンスのライフストーリー研究』を中心に、まず HIV とともに生きる人々の個人誌/生の記述について述べられた。そして、その後の課題として「U=U」（Undetectable = Untransmittable：検出限界未満であれば他の人に感染することは一切ない）の時代における新たな状況が示された。

その後、討論者の新ヶ江さんから、小西さんの報告における医療アクセスの過小性の問題への問い／大島さんの報告における当事者参加型研究に関する問いなど、核心に迫るコメントが提示された。志水さんからは、「不可視的な人々（の営み・ニーズ等）の可視化」の理論的展望を問うコメントが示され、インフラ論との接点および望ましい可視化のあり方について、視座の広がりにつながる論点が提示された。

フロアからも、学際性の高い本学会ならではの多岐にわたる質問・コメントが寄せられ、学術的に密度の高いディスカッションの場となった。対面での参加は12名、オンラインでの参加は33名だった。

（松繁理事：研究活動担当）

4. 定例研究会の報告（関西）

関西定例研究会第1回、看護・ケア研究部会、立命館大学生存学研究所共催、第51回大会連動企画 報告

日時：2025年2月15日（土）14:00～17:15

場所：立命館大学 朱雀キャンパス303号+Zoomによるハイブリッド開催

タイトル：外国人介護職の見た日本の介護

話題提供者：

アブドゥラー コマルディン（社会福祉法人健正福祉会 特別養護老人ホームカサブランカ、

海外事業推進部)

エカ (医療法人健正会 介護老人保健施設はまさき 3、海外事業推進部)

石川和寛 (医療法人健正会 介護老人保健施設はまさき 3 介護士長)

指定討論者：奥島美香 (天理大学)、益加代子 (大阪公立大学)

要旨：

本公開研究会は、2025年5月24・25日に長崎大学で行われる第51回大会の連動企画で、関西定例研究会、看護・ケア研究部会、立命館大学生存学研究所の共催で行われました。対面+オンライン形式で実施し、対面16名、オンライン36名の参加でした。

はじめに日本で働くインドネシア人介護福祉士2名と、その上司である日本人介護福祉士から、外国人介護スタッフが働く介護現場の状況を話題提供していただきました。一人目のアブドゥラーさんからは、インドネシア人が就労する際に感じる文化的差異を仕事のみならず、社会生活を含めてお話いただき、インドネシア人にとって「息苦しさ」を感じるような生活のなかで少しずつ適応していく様相がうかがえました。二人目のエカさんからは、母国での採用活動や受入れ後の継続的な支援について、またインドネシアと日本との介護施設の違いについてご説明いただきました。EPAでの受入れ開始から18年が経過し、来日するインドネシア人の世代の変化とともに、外国人介護スタッフの受入れ制度が多様化していることにより、現場での育成や支援は、継続して工夫し続けていく必要性が伝わりました。最後に石川さんからは、インドネシア人介護スタッフの受入れの経緯や受入れ後の職場の変化をご報告いただきました。なかでも、外国人介護スタッフを継続的に確保することで、人手不足の解消につながり、現場の疲弊感がなくなってきたこと、インドネシア人が働き続けられるような取り組みが、ひいては日本人にも働きやすい職場につながっていることは、大変興味深い内容であり、看護現場での外国人受入れとの違いについて、Berryの文化変容をもとにした議論につながりました。

指定討論者の天理大学の奥島さんからは、インドネシアにおける移住労働の実態、その教育、国内の介護施設の状況、さらには文化的背景をふまえたインドネシア人の定住をめぐる課題など大変示唆に富む解説をいただき、3名の報告内容の理解が深まりました。次に、大阪公立大学の益さんからの外国人介護士との協働による職場の変容、日本の介護知識・技術の移転可能性、介護分野における受入れ制度の多様化に伴う外国人介護スタッフの変化などの質問を通して、全体的な議論を深めることができました。51回大会テーマの「越境」につながるような、介護保険制度での介護実践の在り方、介護の技術移転や介護人材の循環に関する示唆が得られ、大会への期待が高まる研究会となりました。

(益加代子 [大阪公立大学])

5. 看護・ケア研究部会の告知

1) 看護・ケア研究部会総会開催について

看護・ケア研究部会では、活動案・予算案の報告や部会員間の親睦を深めることを目的に、毎年の学会大会期間中に部会総会を開催しております。今年度の部会総会は、下記の通り行い

ます。部会員に限らず、参加は自由ですので、関心のある方は、ご遠慮なくお越し下さい。ご出席をお待ちしております。

日時：大会 2 日目 2025 年 5 月 25 日（日）11:45～12:15

場所：長崎大学坂本キャンパス 2 医歯薬学総合教育研究棟 会場 5（2C）

議事：部会長挨拶、2024 年度会計報告、活動報告、2025 年度活動予定ほか

（松繁理事：研究活動担当）

6. 渉外・国際交流活動の告知

以下の関連学会が開催されます。

- International Sociological Association (ISA) 5th ISA Forum of Sociology

開催日時：2025 年 7 月 6 日-11 日

場所：モロッコ王国ラバト

学会紹介：国際社会学会。学派や学問的接近手法、イデオロギーを超えて、全世界の社会学者のネットワーキングを行う。

2025 年 Forum of Sociology 大会ホームページ：

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/forum/rabat-2025>

（平野理事：国際・渉外担当）

7. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について

会員や学会外部機関から事務局へお寄せいただく学会外部のシンポジウム等の情報につきましては、会員に関連する情報を選択してニューズレター配信メールやホームページにて記載させていただいております。ただし、メール配信やホームページ更新に対する委託料が発生するため、できる限りまとめて行う関係上、ご連絡が開催または申込締切まで 1 ヶ月を切る場合には配信・掲載が間に合わない場合があります。あしからずご了承ください。

（井口理事：広報担当）

8. 編集後記

No.131 は今期理事会の発行の最後のニューズレターとなります。2 年間ありがとうございました。今号では、第 51 回大会直前のお知らせを掲載しています。開催日程が近づいてきましたので、ご参加予定の方はお早めに事前申し込みや交通・宿の確保をお願いいたします。日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92 から PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

（井口理事：広報担当）

発行：日本保健医療社会学会 編集：広報担当（井口高志）
学会事務局： 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp TEL：03-6824-9375